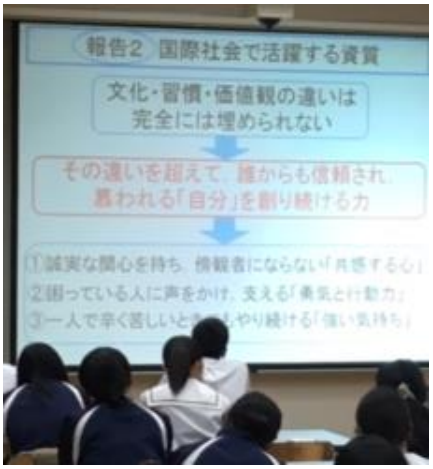
雄　飛

向陽高校進路便り　第45号
平成30年　10月23日(火)
～進越超信～

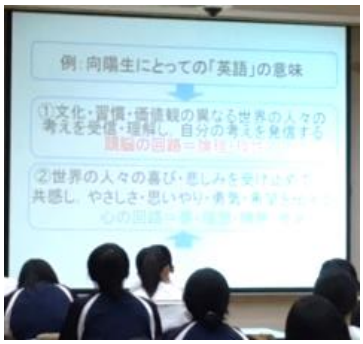
２３期生センター試験まで
88！

外務省　高校講話

10月15日(月)の放課後、外務省職員の西蔵盛益也さんが来校し、外務省のお仕事ややりがい、苦労などをお話してくれました。「まず外務省って何してるとこ？」「やっぱ英語ぺらぺらなの？」「海外での仕事って？」と興味を持った生徒約70名の希望者が、お話に熱心に聞き入りました。



ミャンマーで6年間勤めた西蔵盛さん。
ときにはジャングルの山の奥に衛星無線機をかついで分け入ったり…と、
経験したからこその生々しいお話。
思い出は、非暴力民主化運動の指導者**アウン・サン・スーチーさん→　に**
「あたしとケンカできるくらいミャンマー語勉強してきなさい」と叱られたこと！
次回彼女に会ったときに、ミャンマー語の上達を褒められたそうです。
通訳の難しさは、言葉そのままを訳せばいいわけではないこと。
文化や習慣の違いを乗り越えて、誠実に相手の心に寄り添う共感力、
困っているひとを支える勇気と行動力、粘り強く困難に立ち向かう強い気持ちが必要、と伝えてくれました。



一番関心が高かったのが、やはり語学！「どうやって語学力をあげたの？」という質問に、まだ自分も日々勉強中と謙遜しながらも、「職場で一番英語がぺらぺらの同僚は、唯一留学経験が無い人。『**どんなに忙しい日でも病気でも、毎日一本英語の記事を音読する**』という勉強方法をしていると言っていた。音読は口を動かしながら、視覚、聴覚、読解力も身につく。試してみては」とアドバイス。
偏差値だけを気にするだけでなく、もっと新しい意味づけをしてみようと呼びかけた
質疑の時間はわりと多めに取られていたものの、まさかの50分！
途切れることなく質問が相次ぎ、向陽生の関心の高さがうかがえた。

印象に残っているのは、第二次世界大戦時に日本が行ったことが今でもその現地の人に良い感情も悪い感情も残していることです。私達が人間である以上、感情は切り離せないものだし、行ってしまったことに対する責任は、これからもずっと誠意を見せていくしか方法はないと思いました。お金や時間ではできたわだかまりは完全には取り払えないので、他国と少しでも有効的な関係を築いていけるよう努力することが、私達世代のやるべきことかと思いました。(２年理数科)

琉球新報 2018年10月19日(金)

外交官の仕事　高校生が学ぶ

向陽高校で外務省講座

高校生に外交や国際問題に関心を高めてもらおうと外務省主催の「高校講座」が15日、八重瀬町の向陽高校で開かれた。外務省職員の西蔵盛益也さん＝西原町出身＝が、外交官としてのやりがいや苦労を語り「世界で活躍するには、勉強や日常生活一つ一つに全力を尽くすことが大切だ」と呼び掛けた＝写真。

西蔵さんは、海外への渡航状況の更新や首脳会談での通訳の仕事など外務省の仕事を紹介。「世界レベルの仕事を担当することは非常にやりがいを感じる」と話した。一方で「国際交渉の場では、訳す言葉一つ一つにプレッシャーを感じる」と苦労も語った。

生徒からは「語学力はどのくらいのレベルが必要なのか」「何カ国語をしゃべれなければいけないのか」など質問が相次いだ。

3年生の宇地原基紀さんは「今までは英語の偏差値だけを気にしていたが、学ぶ楽しさを思い出して頑張りたい」と感想を述べた。